

いばらき農業アカデミー『クリの省力化に向けた機械化樹形と果樹用機械開発』の開催

- ・平成 30 年 12 月 6 日（木）、園芸研究所において、クリの省力化技術に関する主要課題現地検討会として、いばらき農業アカデミーを開催した。
- ・茨城県くり生産者連絡協議会（冬季研修会）との共催で、当日は生産者 36 名、普及・行政等関係機関 25 名の計 61 名の出席があった。生産者については、くり連から 22 名のほか、ぶどう連や梨連などくり以外の果樹生産者の出席があった。
- ・A I プロ（革新的技術開発・緊急展開事業）で取り組んでいる‘果実生産の大幅な省力化に向けた作業用機械の自動化・ロボット化と機械化樹形の開発’および‘機械化を前提としたクリの省力型樹形の開発’に関する研究課題について、これまでの成果を踏まえた試験の進捗状況を紹介し、室内およびほ場検討・意見交換を行った。
- ・ほ場検討では、現在開発中の果樹園用自動走行車のデモ走行をクリの試験ほ場において行った。

○ 室内発表・検討

- ・ナシ、リンゴなど 9 樹種における機械化樹形の開発と果樹園用機械の開発に向けた産官学 20 機関のコンソーシアムの取り組み状況を紹介するとともに、現在開発中の自動走行車、自動草刈り機、自動防除機、収穫ロボットを紹介した。



自動走行車



けん引防除機



けん引草刈り機

(※画像提供元：ヤマハ発動機(株)、(株)オーレック)

- ・本県が担当している機械化を前提としたクリの省力型樹形の開発として、列状密植低樹高 Y 字仕立ての新樹形についてこれまでの試験結果（収量・品質等）を報告した。

○ ほ場検討（自動走行車のデモ走行）



○ アンケート結果

- ・内容について → 十分満足、概ね満足が全体の 71%
- ・果樹園用の自動化機械への期待 → 大いに期待する、期待するが全体の 85%
- ・自動化・省力化したい作業は → 1 位：農薬散布、2 位：草刈り、3 位：収穫